

かごしま国体7人制ラグビーに出場した久津輪教諭の活躍が、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

7人制ラグビー・成年男子準優勝



規律と我慢貫く

○：初優勝は逃したが、「規律と我慢」のラグビーは貫いた。成年男子（7人制）は、2016年以来2回目の準優勝だった。もう一歩だった。リーグワン1部の選手がそろい、3連覇を狙う三重との決勝。今大会初の先制を許すも、前半終了間際、野脇隆平主将（鹿銀）のキックパスに「あうんの呼吸で飛び出した」久津輪宗一郎（薩摩中央高教）が同点トライ。

後半3分、桑山聖生（東芝アレイブル）パス東京）が抜けだし逆転トライ。ただ、地力に勝る三重に追いつかれ、延長で涙をのんだ。オリンピック4強を経験した桑水流裕策（ナナイロ・ラボ）と、桑山が加わった今大会。連係の取れた素早いパスワークからの波状攻撃がさえ6試合合計30トライ。一方許したトライは6。ルーズボールを素早く回収し、味方が倒れば敵より先にフォロイーに入った。野脇主将は「チームで徹底してきたことは体現できた」と胸を張る。

悲願は来年以降に持ち越しに。約2年ぶりに現役復帰した桑水流は「宿題が残った。鹿児島島のラグビーの未来に向け、できることをまたみんなで考えたい」と力を込めた。（上栞元大輔）

成年男子決勝 同点トライを決める鹿児島島の久津輪宗一郎
II 県立サッカー・ラグビー場